

■理工学研究科の学位授与の方針（Diploma Policy；D P）

理工学研究科は、次に掲げる博士前期課程の要件をすべて満たし、かつ本研究科の博士前期の教育課程において所定の単位を取得した者に対して「修士（理工学）」、もしくは「修士（工学）」の学位を授与する。

< 博士前期課程 >

修士（理工学）

【基礎知識と基礎技術】

（D P 1）自身の専門に関わる研究活動を行うため、数学や自然科学を中心とする基礎知識と種々の工学的基礎技術を修得しており、それらを融合して研究課題に取り組むことができる。

【幅広い知識と視野】

（D P 2）幅広い理学的および工学的知識と視野の獲得を通じて、自らの研究課題の位置づけを理解し、説明できる。

【新しい課題への意欲】

（D P 3）新たな研究課題を発見し、必要な理学・工学知識と技術を活用して意欲的かつ継続的に解決に向けて挑むことができる。

修士（工学）

【基礎知識と基礎技術】

（D P 1）自身の専門に関わる研究活動を行うため、十分な工学的基礎知識と基礎技術を修得しており、方法の効果を予測しながら研究課題に取り組むことができる。

【幅広い知識と視野】

（D P 2）幅広い工学的な知識と視野の獲得を通じて、自らの研究課題の位置づけを理解し、説明できる。

【新しい課題への意欲】

（D P 3）新たな研究課題を発見し、必要な工学知識と技術を活用して意欲的かつ継続的に解決に向けて挑むことができる。

理工学研究科は、次に掲げる博士後期課程の要件をすべて満たし、かつ本研究科の博士後期の教育課程において所定の単位を取得した者に対して「博士（理工学）」、もしくは「博士（工学）」の学位を授与する。

< 博士後期課程 >

博士（理工学）

【多元的な研究手法】

（D P 4）理学・工学にわたる多元的な視野に基づいた研究手法を修得して、幅広い研究課題に主体的に取り組むことができる。

【高い倫理観】

(D P 5) 自立した研究者として、高い倫理観を持ち、理学・工学の横断的な深い経験をもって知識基盤社会に貢献できる。

【研究者としての使命の自覚】

(D P 6) 研究者としての使命を自覚し、他者と協働して創造性豊かな研究成果を社会に継続的に公表できる。

博士 (工学)

【多元的な研究手法】

(D P 4) 幅広い工学の多元的な視野に基づいた研究手法を修得して、工学に資する研究課題に主体的に取り組むことができる。

【高い倫理観】

(D P 5) 自立した研究者として、高い倫理観を持ち、工学関連の幅広く深い経験をもって知識基盤社会に貢献できる。

【研究者としての使命の自覚】

(D P 6) 研究者としての使命を自覚し、有用性が高く、創造性に富んだ研究成果を社会に継続的に公表できる。

以上